

学校だより



〈いよくふう〉

校訓 継続は力なり

鴻巣市立吹上中学校

学校だより「緑風」は、毎月本校HPに掲載しています。

本校HP <https://fukiage-j-konosu.edumap.jp/>

令和8年6月1日(月) 第3号

厳しさとしなやかさ

校長 大島 進



6月は、体育祭や修学旅行の大きな行事の月です。大きな行事には当然ながらそれなりの準備も必要ですので、忙しい月となりますが、多くの成長と心に残る思い出として6月を過ごしてほしいと思います。

今回は、厳しさとしなやかさをテーマに進めさせていただきます。

入学式でも似たような話をさせていただきましたが、中学校は、小学校での経験や知識を生かして、全ての面においてさらなる高みを目指していく3年間です。その先には、更に高いハードルが待ち構えています。そして自立（自律）していくことが必要となっていきます。

先日、校長室を訪れた方々と話したときに、今の中学生の様子について、意見を交わす機会がありました。その時に出てきた話題は「今の中学生が将来どうなっていくのか」

「社会の荒波の中で生き抜いていけるのか」ということでした。

いつの時代も中学生の時期に必要な力は、大人になったときの自立（自律）に向けて生きる力を付けていくことです。このことを受けて、すでにご案内の通り、本校の教育目標は「自らの力で未来を拓く生徒の育成」を掲げています。

これは人間だけにあてはまることではなく、他の動物でも我が子を独り立ちさせるために様々なことを教える場面が見られます。時として独り立ちさせるために厳しく接することすらあります。

一方、私たちの人間の社会に目を向けると、人生の厳しさを教えることが学校現場で難しくなっていると感じることがあります。

確かに以前に比べて、学校も家庭も地域も社会全体が子どもに対する姿勢が少しずつ変化してきているように感じます。手厚くなった部分や希薄になった部分が混在している時代と言えるでしょうか。このことは見方によって良いか悪いか賛否が分かれるところです。ただ、長い人生において、厳しいことから避け続けることはできません。向かい風の時にしなやかに生きていく力を若いうちに得ていく必要もあるのではないかと考えることがあります。

「疾風に勁草を知る」（しっぷうにけいそうをしる）という中国の故事は私の好きな言葉で、昨年の5月の全校朝会でも生徒に紹介しました。大雑把な説明で恐縮ですが、強い風が吹いたときにその風に折れない強い草の存在を知るという言葉です。

吹上中学校の生徒は、自分たちで自らの集団を高めていこうとする伝統が根付いています。自分の強さを身につけるために、周りとの切磋琢磨して生きぬく力を付けてほしいと思います。そして成長過程にある中学生は失敗することは当たり前ですので、失敗を恐れずに、自ら前に進もうとする姿勢を持ち続けてほしいと思います。